

KN グローカルリサーチレポート 2017年12月 No.20



師走となりました。職場や家庭でも慌ただしくなる 12 月ですが、年末だからこそ、「安全&安心」を心がけたいと思います。

ワーストワン：「浜松」＝交通安全を！！

平成 28 年、20 政令指定都市中、人口 10 万人当たりの人身交通事故件数ワーストワンは、「浜松市 (1051.19 件)」で、9 年連続の最悪都市となった。通勤時など自家用車の利用の多さが最大の要因とみられるが、運転者の安全意識が低いとも言われている。

ちなみに、人身交通事故件数は、「名古屋市」が最も多く 13,296 件で、以下、「大阪市」12,173 件、「福岡市」10,633 件で、「浜松市」は 5 位の 8,376 件となっている。

静岡県警察本部の「静岡県交通事故統計」によると、本年 1 月～10 月末までの静岡県内・警察署別の交通事故発生状況は、「浜松中央署」が最も多く 2,884 件、次いで「浜松東署」で 2,321 件となっており、この 2 署で静岡県内の発生件数の約 2 割を占めている。同じ政令市の静岡市と比べても、浜松市の交通事故が多いことがわかる。

人身事故は 8 時～10 時と 16 時～18 時の通勤時間と、金曜日に多くなる傾向がある。

■表1 政令市人身交通事故発生状況(H28)

発生件数		B人口10万人当たり	
1 名古屋	13,296	1 浜松	1051.19
2 大阪	12,173	2 北九州	808.91
3 福岡	10,633	3 静岡	789.55
4 横浜	10,081	4 福岡	683.19
5 浜松	8,376	5 名古屋	576.26
6 北九州	7,729	6 岡山	567.50
7 神戸	6,965	7 堺	469.10
8 静岡	5,537	8 神戸	453.10
9 札幌	5,375	9 大阪	450.28
10 京都	4,883	10 熊本	419.16

出所：「浜松市 資料」より

■表2 静岡県 警察署別 交通事故発生状況

	件数	死者	負傷者	物件
1 浜松中央	2,884	5	3,712	6,434
2 浜松東	2,321	4	3,101	4,954
3 沼津	1,760	5	2,211	5,002
4 富士	1,633	6	2,122	4,894
5 静岡南	1,589	4	1,932	4,363
6 清水	1,436	5	1,769	4,082
7 静岡中央	1,415	10	1,687	4,499
8 磐田	1,201	5	1,590	2,489
9 藤枝	994	3	1,265	2,573
10 焼津	910	5	1,175	2,131
15 細江	627	2	819	1,660
16 浜北	583	1	772	1,453
28 天竜	110	3	149	336
合計*	24,748	107	32,342	71,621

*合計は、平成29年1月～10月末までの累計

出所：「静岡県警察本部 交通部交通企画課」より

表3 人身事故の曜日別 時間別 件数 (平成29年1月～10月末までの累計) 出所：同上

	0～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	
合計／%	2.9%	12.2%	14.0%	12.2%	11.5%	12.5%	15.7%	12.1%	4.8%	2.4%	
月	3,677	70	498	546	405	389	427	661	462	151	68
火	3,765	95	572	541	448	396	447	539	485	164	78
水	3,661	81	571	521	368	406	369	570	516	186	73
木	3,674	93	527	593	417	354	456	555	420	161	98
金	3,998	100	518	566	421	375	474	669	553	215	107
土	3,270	151	207	389	519	498	444	460	320	178	104
日	2,703	114	116	299	430	425	468	426	232	129	64

***** ～～ バンコクの風 ～～*****

国王の火葬を終えても、タイ人の心はプーミポン国王と共にあります。公務員や銀行員などに義務付けられていた黒い服の着用が解除され、街の景色は色合いが少し豊かになりました。

今年はチェンマイ名物「灯籠流し」も盛大に行われました。タイでは「ロイクラトン」と呼ばれる恋人たちの行事です。非常に幻想的な風景ですが、やはり近隣の火事はつきものようです。豊かな発想と、全てを禁止にしない心の広さがタイの良いところです。（バンコク・影山）



表4 人身事故の年齢層別 違反の上位 件数 (平成29年1月～10月末までの累計)

年齢	合計	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～74	75～
合計	24,748	1,269	4,873	4,047	4,423	3,340	1,506	3,198	1,913
1 安全不確認	7,424	266	1,168	1,083	1,334	1,144	557	1,172	700
2 動静不注意	4,235	208	1,071	871	860	539	181	323	182
3 脇見運転	3,457	187	825	660	638	437	185	360	165
4 漫然運転	2,218	115	547	390	398	286	122	227	133
5 運転操作	1,822	98	399	266	268	233	116	273	169
6 交差点安全	1,370	43	234	209	262	208	82	202	130
7 一時不停止	1,287	196	216	160	161	125	76	207	146
8 信号無視	907	51	155	129	156	108	52	129	127

人身事故の当事者の年齢は、20～29才の若者が多い。

車両の違反は、「安全不確認」が最も多く、以下、「動静不注意」、「脇見運転」、「漫然運転」、「運転操作」、「交差点安全」、「一時不停止」、「信号無視」の順となっている。

また、人身事故は、「車両相互」が88.3%と大部分で、「人対車両」は7.1%、「車両単独」が4.6%となっている。人身事故の類型は、多い順に、「追突」39.3%、「出合頭」26.6%、「右折時」6.8%、「横断中」3.7%、「左折時」3.6%となっている。

交通事故『構成率』は、「追突」39.3%、「交差点内」36.5%、「女性ドライバー」35.2%、「高齢者」33.2%、「出合頭」26.6%、「若者起因事故」22.8%、「夜間事故」22.4%、「高齢者ドライバー」19.9%で高くなっている（例えば、交通事故が100件あったとすると、追突に関する事故が39.3件、女性ドライバーに関する事故が35.2件起きた事を示している）。



統計から、交通事故の傾向を読み取り、日々の交通安全に生かしたい。

執筆 = 西川公一郎：元浜松市議会議員、防災士
 (公社)子どもの発達科学研究所 事務局長
 (一財)日本総合研究所 客員研究員
 浜松市中区 在住 ko-ichi@24kawa.org